

深谷市地域公共交通計画 (令和6年3月策定) 概要版



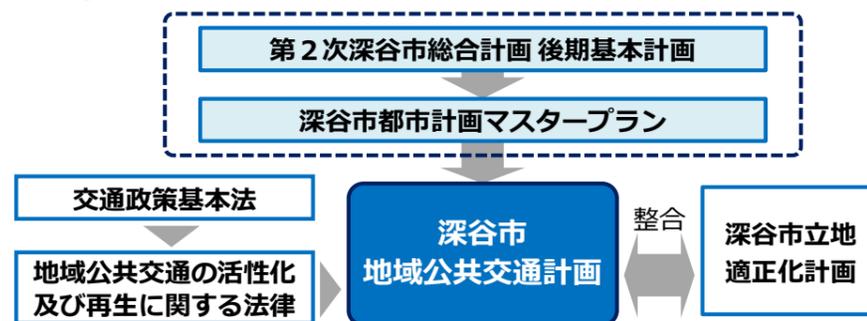
1 背景と目的

全国的な人口減少・少子高齢化の進展や、運転免許証返納者の増加等により地域公共交通の必要性は高まっていますが、路線バスやタクシーでは深刻化する運転手不足、令和6(2024)年施行の改善基準告示の改正による運行可能時間の短縮等により、現状のサービス水準を維持することが困難となっています。

深谷市では、「交通政策基本法」「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づく「深谷市地域公共交通網形成計画」を策定し、令和4(2022)年のコミュニティバス『くるリン』再編と共に、地域公共交通の将来像を定め、目標を達成するための実施事業に基づき計画を推進してきました。

「深谷市地域公共交通網形成計画」は令和5年度をもって計画期間終了となることから、法律の改正に対応し、市内全域の公共交通の効果的な運用についての基本方針を示すべく、有効かつ実現可能なマスタープランとして「深谷市地域公共交通計画」を策定することを目的とします。

2 計画の位置付け



3 計画区域・期間

【対象区域】
深谷市全域

【計画期間】
令和6(2024)年度
～令和12(2030)年度(7年間)

4 現状・課題と基本方針に基づく計画目標

■深谷市の現状

【地域の状況】

- 人口減少、高齢化率増加
- ふかや花園プレミアム・アウトレットが令和4年に開業
- 市内運行状況：鉄道2路線7駅、民間路線バス3社3路線、コミュニティバス『くるリン』(定時定路線4路線、デマンドバス3エリア)、民間タクシー2社

【上位関連計画】

- 「第2次深谷市総合計画後期基本計画」において、快適で利便性の高いまちづくりの一環として交通アクセスの便利なまちづくりを目指している
- 「深谷市都市計画マスタープラン」において、エコ・コンパクトな集約型都市構造の都市の実現を目指している

【市民対象調査】

- 外出について「将来に不安あり」が4割以上(高齢者では約7割)
- 外出時に不便と感じる目的地は「鉄道駅」等
- 民間路線バス及び『くるリン』(定時定路線)の利用率は5.7%、利用しない理由は「自家用車(送迎含む)で移動するから」が最も多い
- 『くるリン』の満足度が低い項目は、定時定路線で「運行本数」「運行時間帯」、デマンドバスで「予約のしやすさ」「予約申し込み時間」
- 『くるリン』の運賃について「値上げもやむを得ない」は37.5%、「値上げすべきでない」は26.5%

【コミュニティバス『くるリン』利用者アンケート調査】

- 利用者は自動車運転免許や自動車の非所有者が多い
- 利用目的は、定時定路線で「通勤」「買い物」、デマンドバスで「通院介護サービス」が多い

【公共交通利用者ヒアリング調査】

- 『くるリン』の利用者のうち65歳以上が占める割合は、定時定路線で29.4%、デマンドバスで60.2%
- 『くるリン』の満足度(満足+やや満足)は、定時定路線で61.4%、デマンドバスで87.1%

■課題整理

利用者	課題	内容
利用者	課題1	「都市計画マスタープラン」、 「立地適正化計画」等と 連動した拠点間を結ぶ 公共交通ネットワークの維持・向上
	課題2	鉄道駅への アクセス利便性が高く 広域的な公共交通ネットワークの 維持・向上
	課題3	障害者や高齢者等の 市民利用ニーズに加え 来訪者の移動手段等、 あらゆるニーズへの対応
	課題4	公共交通機関同士の 乗継ぎ利便性や 面的サービス(デマンド交通) 利便性の向上
	課題5	市民や来訪者にとって 分かりやすい 公共交通に関する 情報発信手段の改善
持続可能性	課題6	多様な主体との “共創”による 地域公共交通の 持続可能性の向上

【基本方針】
市民と来訪者の移動を支え、
誰もが安心して利用できる
持続可能な公共交通ネットワークの形成

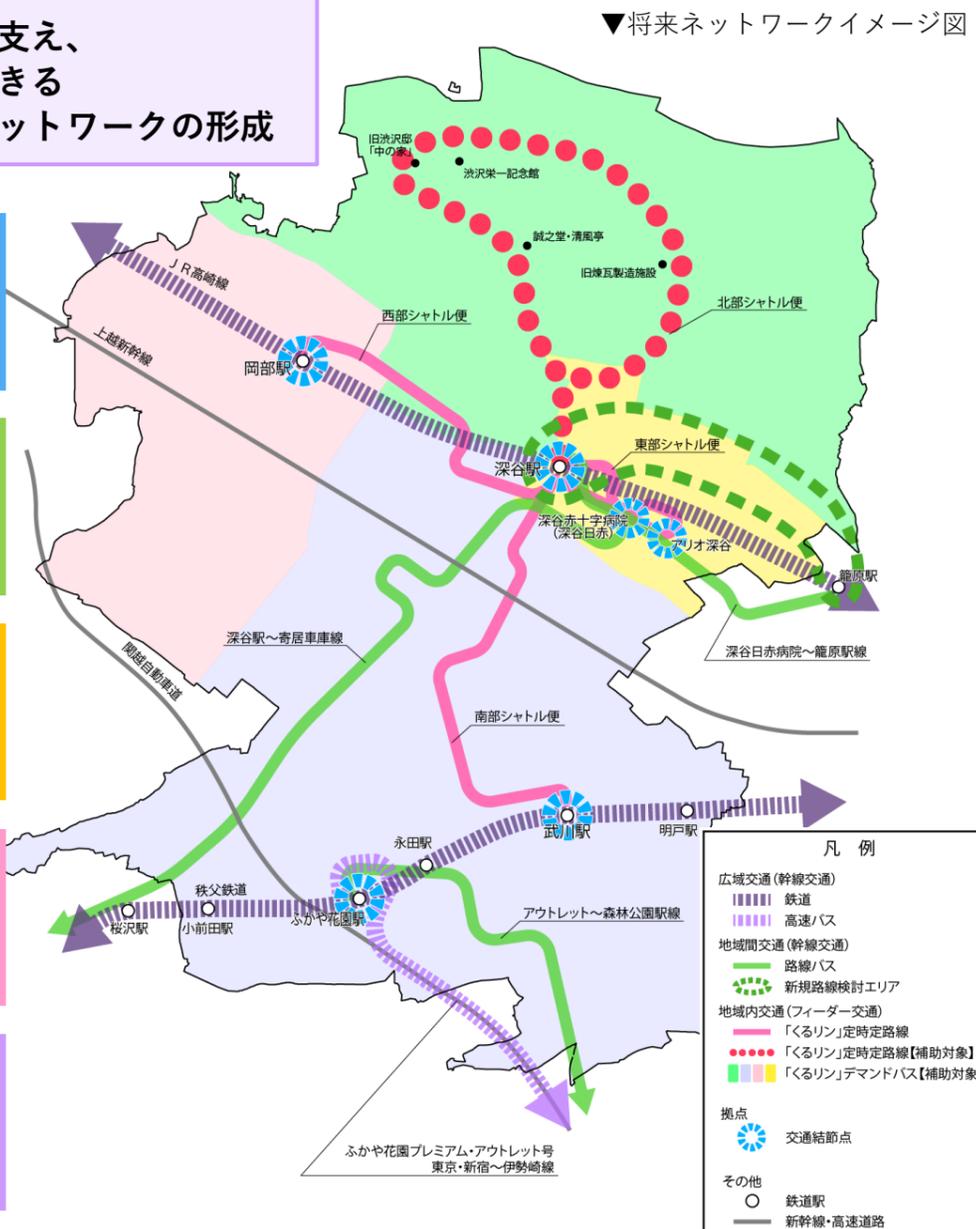
【計画目標1】
広域及び都市間をつなぐ
ネットワークの向上を目指す

【計画目標2】
市民も来訪者も利用しやすい
公共交通サービスの
提供を目指す

【計画目標3】
既存公共交通の利用促進
に向けた環境づくりを目指す

【計画目標4】
新しい技術の導入による
利便性の高い地域公共交通
を目指す

【計画目標5】
多様な主体の“共創”による
持続可能性の高い地域
公共交通を目指す



▼将来ネットワークイメージ図

5 目標を実現するための事業と評価指標

【基本方針】 市民と来訪者の移動を支え、誰もが安心して利用できる 持続可能な公共交通ネットワークの形成

計画目標1 広域及び都市間をつなぐネットワークの向上を目指す

- 事業1.1 鉄道や高速バス等、広域交通の利便性向上
- 事業1.2 路線バスの維持及び新規路線の導入検討
- 事業1.3 交通結節点の機能向上



計画目標2 市民も来訪者も利用しやすい公共交通サービスの提供を目指す

- 事業2.1 コミュニティバス「くるリン」(定時定路線)の再編
(北部シャトル便)
- 事業2.2 コミュニティバス「くるリン」(デマンドバス)のサービス向上
(北部シャトル便以外)
- 事業2.3 福祉サービスと連携した移動支援事業の継続
- 事業2.4 円滑な移動に資する支援のあり方の調査・研究



計画目標3 既存公共交通の利用促進に向けた環境づくりを目指す

- 事業3.1 既存公共交通の利用促進
- 事業3.2 公共交通の利用に関するわかりやすい情報提供
- 事業3.3 地域公共交通を身近に感じるための体験・機会の創出



計画目標4 新しい技術の導入による利便性の高い地域公共交通を目指す

- 事業4.1 自動運転バスの導入検討
- 事業4.2 MaaSに関する調査・研究



計画目標5 多様な主体の“共創”による持続可能性の高い地域公共交通を目指す

- 事業5.1 他分野(福祉・教育等)と連携した取組みの検討
- 事業5.2 運転手不足への対応
- 事業5.3 地域住民主体で運行する公共交通の調査・研究



評価指標	基準値(R4)	目標値(R11)
○鉄道の利用者数	12,993人/日	14,613人/日
○路線バスの利用者数	69,636人/年	69,636人/年
○コミュニティバス「くるリン」(定時定路線)の利用者数	63,983人/年	127,227人/年
○コミュニティバス「くるリン」(定時定路線)の運行サービス全体に対する満足度	45.4%	50.6%
○コミュニティバス「くるリン」(デマンドバス)の利用者数	29,607人/年	34,022人/年
○コミュニティバス「くるリン」(デマンドバス)の運行サービス全体に対する満足度	62.8%	62.8%
○一般タクシーの利用者数	174,041人/年	174,041人/年
○「深谷市コミュニティバス『くるリン』バス停マップ」の見直し	-	1回/年
○公共交通利用の説明会やバスの乗り方教室の開催回数	-	3~5回/年
○自動運転バス等先進技術の導入件数	-	1件
○他分野や地域住民等との連携による公共交通の導入件数	-	1件
○コミュニティバス「くるリン」(定時定路線)の運行事業収支率	14.6%	17.9%
○コミュニティバス「くるリン」(デマンドバス)の運行事業収支率	8.1%	13.2%

深谷市地域公共交通会議
(事務局：深谷市都市整備部都市計画課)